府中市史編さんだより

第 11 号　　令和 4 年 (2022) 2 月 1 日

ふちゅう温故知新⑨　　**上空からみた押立町付近（平成12年撮影）**

押立町（おしたてちょう）

押立町は、市域最南東端に位置する町です。「おしたて」の地名の由来は諸説あるようです。①多摩川の洪水で村内の水田が押し切られたことから押田という地名が生まれ、それが押立に転じた（『新編武蔵風土記稿』）。②多摩川の堤防工事のための人夫を大勢押し立てることから生じた (『武蔵府中物語』)。③建長三年 (1251) 正月十一日条に見える押立左近太夫資能がこの地に住み、将軍家に奉仕したと伝えられることからこの名を取った (『武蔵名勝図絵』)。④戦国時代、北条氏と扇谷上杉氏との小沢原の合戦の主戦場が、「玉川の端小沢原」と見え、ここが当時の多摩川の渡河地点で、現在の府中市押立から稲城市押立付近と想定でき、当時の記述の中に扇谷上杉が「一度も勝つことなく、毎度押し立てられにけり」と見え、これが江戸時代に押立の地名となった（『異本小田原記』、「府中東部を南北に縦貫する「鶴川街道」と呼ばれる道をめぐって」『新 府中市史研究』第 2 号)。

上にもふれたように、この地名は現在の多摩川対岸の稲城市にも存在します。これは、現在のように堤防が整備された状況では考えにくいですが、江戸時代におこった洪水によって、多摩川の流路が大きく変わり、押立の地が分断されたことによるものです。また、押立町から北上したはけの上には、現在調布飛行場（朝日町）がありますが、ここは押立村から移住した人々が開墾した場所で、古くは押立村新田とか押立山谷とよばれていました。このように地名は多摩川と人々のくらしの歴史を教えてくれます。榊原記念病院建設の際には押立山谷の一部とみられる江戸時代後期の屋敷跡が発掘されています。この押立出身の人物として、江戸時代の農政家川崎平右衛門定孝（1694 ～ 1767）が知られています。押立の名主の家に生まれ、農民から幕臣となり、大岡忠相や徳川吉宗にも認められ、各地の天領の代官となり武士にも農民にも慕われた人物です。

現在の押立は、ほとんどが住宅地となっています。また、町内には中央自動車道が通り、「稲城 IC」があります。平成 7 年 (1995) に都道の有料道路（現在は無料）の稲城大橋が開通し、中央自動車道の府中側に稲城 IC ができました。

『新 府中市史』新刊紹介

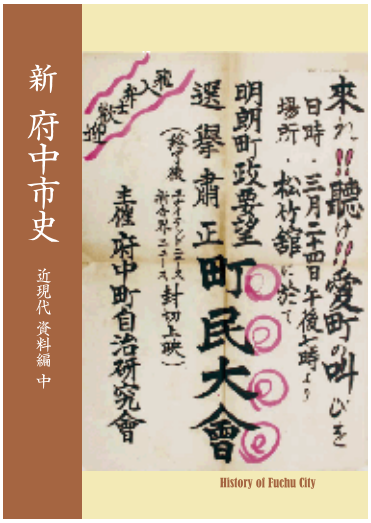
新 府中市史　原始・古代　資料編　3
考古資料 2

原始・古代分野の 3 冊目の資料編です。『新 府中市史　原始･古代　資料編 1　考古資料 1 』に続き、本書では府中市の 7 世紀中葉～ 11 世紀―飛鳥・奈良・平安時代の考古資料を掲載しています。府中市の代表的な遺跡である武蔵府中熊野神社古墳、武蔵国衙と武蔵国府関連遺跡、武蔵国分寺跡･関連遺跡などを収録しています。

始めに武蔵国府を中心とした調査・研究史、次に武蔵国府関連遺跡の長年にわたる調査成果を中心に、主要な調査地区と遺構を紹介し、最後に出土遺物を掲載しています。巻末の附編には古代の武蔵国府にかかわる文献一覧を収載しています。

B 5 判　590 頁　価格 2,000 円

新 府中市史　近現代　資料編　中

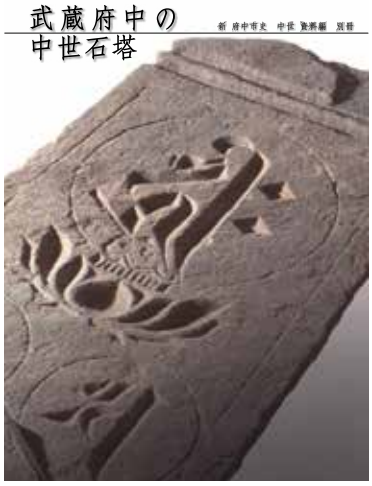


明治維新期から日中戦争前後を扱った上巻に続き、本書では主に日中戦争期から高度成長期に当たる時期を中心に、「戦争と復興」「市制施行」「文化」の三つのテーマを柱に章立てをし、資料を翻刻、収録しました。

収録した資料からは、府中の人びとが戦中から敗戦直後の厳しい時期をどのように生きていたのか、府中町・多磨村・西府村が昭和 29 年（1954）に合併して、今の府中市となるまでにどのような動きがあったのか、そして戦後すぐの頃から文化会や読書会、美術会といった多様な分野にわたる文化活動が、市民の草の根のレベルで活発に行われていた様子がうかがえます。

B 5 判　627 頁　価格 2,000 円

新 府中市史　中世　資料編別冊
武蔵府中の中世石塔



府中市内に残された 600 点以上の中世石塔を集録した、『新 府中市史　中世　資料編』の別冊となります。これまでに市内で確認された中世石塔（板碑・五輪塔・宝篋印塔）に関する情報や拓本・写真画像を地域別に一覧としてまとめるとともに、これらの石塔に関する調査・研究のあゆみや、最新の研究成果についてわかりやすく解説しています。

A 4 判　351 頁　価格 1,400 円

新 府中市史　古文書調査報告書
四ッ谷　市川千秋家　市川閲子家　市川仁家

市史編さん事業にあたって調査を行った四谷地区（旧多摩郡四ッ谷村）３家の古文書調査の結果を報告書としてまとめたものです。本書の構成は、「１ 四ッ谷村の概要」、「２ 家の概要」、「３ 文書群の解説と目録」の形でまとめています。１では、四ッ谷村絵図、用水路、三左衛門新田、檀那寺と檀家、多摩川絵図について解説しています。

Ａ４判　445 頁　価格 1,000 円

新 府中市史研究　武蔵府中を考える　第３号

本誌は、市史編さん事業における調査活動の過程で得られた研究成果や各種講演会の記録を公開する場として創刊されました。本号では、白川宗源「中世の高安寺について」、川原健太郎「ラグビーのまち府中」の歩みと諸相―地域文化としてのラグビーの視点から」論文２編、山本亮子「ミキノクチの考察」、「新刊紹介」、「専門部会委員著作紹介（2019 － 2020）」、小林謙一ほか「白糸台の通称彦四郎塚調査報告」、小林謙一編「報告　清水が丘遺跡の研究」などを収録しています。

Ａ４判　82 頁　価格 500 円

市史編さんの刊行物は、ふるさと府中歴史館３階市史編さん担当で頒布しています（平日のみ）。

他に、府中市郷土の森博物館、市民相談室（府中市役所１階）、市政情報センター（府中駅ルシーニュ５階　府中市市民活動センタープラッツ）、観光情報センター（大國魂神社交番横）でも購入可能です。市史編さん関係の図書は通信販売も行っていますが、送料は刊行物の種類と冊数で変動いたしますので、巻末の電話・電子メール等で事前にお問合せください。

市民文化の日イベント

令和３年 10 月 10 日（日）の市民文化の日には、ふるさと府中歴史館３階の市史編さん資料室において、これまでに発行された市史刊行物の展示・頒布を行いました。来場者の多くの方が、実際に市史を手に取ってご覧いただきました。合せて最近白糸台で発見された旧陸軍の百式司令部偵察機の尾翼の実物と解説パネルの展示を行い、こちらも多くの来場者の関心を集めました。当日のふるさと府中歴史館（１～３階）の来館者は 1,209 人でした。新発見の尾翼については『新 府中市史研究』第４号で紹介いたします。

市民文化の日の展示風景

中河原駅とその周辺（昭和 30 年代）

私が住んでいた家は住吉町の下河原通り沿いにありました。建替え工事の際に確認したところ、無数の松で出来た杭が出て来ました。これで軟弱な地盤を固めて家を建てたらしいのです。多摩川低地は砂利が主体の場所であったため、そこに多摩市から荒木田土を客土して農地化してきたとも聞いています（荒木田土とは、田んぼの土として一般的な植物質に富む黒い粘土質の土のこと）。現在でこそ高低差を意識することはあまりないですが、実家の商家の駐車場と下河原通りには数メートルの段差がありました。おそらくは多摩川流路の変遷でできた段差か、昔の堤防の痕跡ではないかと思われます。またこの崖の一部は、現在は住吉町と南町の境ですが、かつては府中町と多摩村の境界になっていたこともあります。市史の自然分野では多摩川低地の地形や用水路の調査にも取り組んでいますが、現在では大きく風景が変わってしまいました。

京王線中河原駅の下を南北に横切る中川という名の小川（用水路）があります。今は暗渠になっていますが、高架になる前は駅のホームからもその流れを見ることができました。小川にはかつてはドジョウやフナがたくさん生息していて、子供の頃には友達とともにタモ網ですくって遊びました。高度経済成長の前までは、昔ながらの豊かな自然がそのまま残っていました。最近知ったことですが、この小川は日本電気の敷地の南側と北側の用水路の合流先に当たり、そのために勢いが強くなっていたようです。そのほかに、なぜか記憶にカラー映像として鮮明に残っているものとして、下河原線が廃止される直前のディーゼル機関車があります。オレンジとグレーに塗り分けられた一つ目の機関車が、南町第３公園付近の交差点にあった踏切を通る様子を覚えています。

（ふるさと文化財課　荻野二朗）

市史編さん審議会

令和３年度第１回（５月 24 日開催）

府中市史編さん審議会の答申について審議し、刊行物の発行状況、事業の進捗と今後の予定、来年度刊行予定の『新 府中市史　通史編』について事務局より報告。

令和３年度第２回（12 月 16 日開催）

市民公募により新委員（２名）を迎え、本年度の市史編さん事業の進捗状況・発行予定の市史刊行物、来年度事業と市史刊行物の発行予定、通史編の執筆要領について事務局より報告。

全刊行物の発行後の事業の予定、市史編さん事業の完了後の資料の保管先や活用などについて委員のご意見を聴取。

部 会 通 信

原始・古代専門部会

『新 府中市史　原始古代　資料編３　考古資料２』を刊行しました。来年度の『原始・古代通史編』刊行に向けて計３回の専門部会を開催し、原稿の作成に取り組んでいます。

考古分野会では昨年度に引き続き、８月に市史編さん資料室で、原始・古代専門部会の小林委員を中心に、縄文、弥生土器の植物種実圧痕の悉皆的な調査を行いました。昨年に続いて今年度の調査でも栽培植物の種実圧痕が確認され、大きな成果が上がりました。

土器の種実圧痕のレプリカ作成の様子

中世専門部会

『新 府中市史　中世資料編別冊　武蔵府中の中世石塔』を刊行しました。これまでに市域内で確認された 600 点以上の中世石塔を、中世資料編の別冊として集成・解説した資料集です。

また『新 府中市史　中世　通史編』の刊行に向けて、計５回の専門部会を開催し、通史編の章立てや体裁などについて具体的な議論を進めました。

板碑の調査風景（髙安寺）

近世専門部会

『新 府中市史　古文書調査報告書　四ッ谷市川千秋家　市川閲子家　市川仁家』を刊行しました。令和３年度は成城大学図書館寄託資料の是政三岡安右衛門家文書の目録整理を行い『新 府中市史　古文書調査報告書是政三岡安右衛門家』を刊行しました。また押立金井家の資料調査を実施しました。

近・現代専門部会

『新 府中市史　近現代 資料編 中』を刊行しました。今年度は『新 府中市史　近現代 資料編 下』の編集をしています。また、資料編下と続く通史編の充実に向けて、市内外の資料館等に所蔵されている資料を収集し、市民の方々や市内団体からも資料提供のご協力をいただきました。武蔵府中郷土かるたの絵札を描いた赤羽末吉氏の仕事については、『新 府中市史研究 武蔵府中を考える』第４号と資料編下に掲載する予定です。

自然専門部会

令和３年度は、用水路の調査を行いました。用水路は産業振興課・道路課・公園緑地課の３課が関与している施設ですが、各課に現状を伺い、更に西府用水組合長にもお話を伺いました。用水路は市の多摩川低地に広く分布し、現在も南武線の西側のみが多摩川からの取水を流しています。

民俗専門部会

通史編執筆に向けた調査、中でも、くらやみ祭に関する調査に力を入れています。最近では、貴重な文字資料や祭半纏、昔の写真などを借用・撮影させていただきました。これらを見るとあらためて、くらやみ祭は多くの人の熱意と協力によって今日まで伝えられている祭礼であることを感じます。このような社会情勢で各種イベントや年中行事の調査は厳しい現状ですが、引き続き今できる調査を進めてまいります。

考古・美術工芸専門部会

考古分野では、掲載する資料の再検討を行いました。発掘した資料に限定し、歴史的重要性はもとより「優れた機能美」、「製作が優秀」で

市内農業の調査風景

あることを念頭において、共通のテーマとして厳選しました。今後は資料の調査、撮影を進めていきます。

彫刻分野、絵画分野では、市内の寺院にご協力をいただき、ご仏像、掛軸などの調査、撮影を行いました。新型コロナウイルスの影響により、思うように進められないこともありますが、ご所蔵者様のご協力と委員の先生方の意欲的な活動によって少しずつ前進しています。

市史編さんの活動記録

（令和２年１０月～令和３年１２月）

令和２年

10月１日　府中書房調査（近現代）
５日　是政保育園調査（近現代）
10日　（株）ダイイチ調査（近現代）
13日　双盤念仏調査（民俗）
14日　正光院石塔調査（中世）
　　市内農業調査（民俗）
19日　近現代専門部会
20日　中世専門部会
21日　武蔵府中熊野神社古墳保存会調査（近現代）
22日　花蔵院調査（考古・美術工芸）
28日　是政保育園調査（近現代）
　　称名寺調査（考古・美術工芸）
11月４日　市内造園業者調査（民俗）
６日　髙安寺石塔調査（中世）
９日　武蔵府中熊野神社古墳保存会調査（近現代）
10日　郷土の森博物館調査（近現代）
16日　花蔵院調査（考古・美術工芸）
17日　本願寺調査（考古・美術工芸）
18日　光明院石塔調査（中世）
18日～25日　大國魂神社樹木調査（自然）
24日　称名寺調査（考古・美術工芸）
26日　市内農業調査（民俗）
　　慈恵院調査（考古・美術工芸）
27日　市内農業調査（民俗）
30日　動物供養調査（民俗）
12月１日　郷土の森博物館調査（近現代）
２日　白糸台地区石塔調査（中世）
３日　武蔵府中熊野神社古墳保存会調査（近現代）
７日　近現代専門部会
８日　髙安寺調査（中世、考古・美術工芸）
９日　妙光院調査（考古・美術工芸）
11日　本町・是政・南町地区石塔調査（中世）
　　府中ボランティアセンター調査（近現代）
15日　考古・美術工芸専門部会
16日　郷土の森博物館調査（近現代）
17日　府中ボランティアセンター調査（近現代）
　　自然専門部会

令和３年

１月4・6日　市内温湿度定観測データ回収（自然）
６日　出初式調査（民俗）
14日　郷土の森博物館調査（近現代）
19日　称名寺調査（考古・美術工芸）
20日　花蔵院調査（考古・美術工芸）
21日　称名寺調査（考古・美術工芸）
28日　郷土の森博物館資料調査（近世）
２月３日　中世専門部会
10日　髙安寺調査（考古・美術工芸）
17日　称名寺調査（考古・美術工芸）
18日　郷土の森博物館調査（近現代）
22日　安養寺調査（考古・美術工芸）

24日　称名寺調査（考古・美術工芸）
25日　郷土の森博物館調査（近現代）
３月３日　普門寺調査（考古・美術工芸）
８日　自然専門部会
11日　民俗専門部会
　　普門寺調査（考古・美術工芸）
16日　正光院調査（考古・美術工芸）
23日　市内民俗調査（民俗）
29日　正光院調査（考古・美術工芸）
31日　市内民俗調査（民俗）
４月２日　普門寺調査（考古・美術工芸）
６日　妙光院調査（考古・美術工芸）
　　正光院調査（考古・美術工芸）
８日　市内造園業者調査（民俗）
９日　考古・美術工芸専門部会
12日　髙安寺調査（考古・美術工芸）
13日　郷土の森博物館資料調査（近世）
　　髙安寺調査（考古・美術工芸）
17日　中世専門部会
18日　髙安寺観音講調査（民俗）
27日　百式司令部偵察機の尾翼調査（主幹）
５月６日　髙安寺調査（考古・美術工芸）
17日　市内温湿度定観測データ回収（自然）
～20日
21日　原始・古代専門部会
24日　市史編さん審議会
31日　安養寺調査（考古・美術工芸）
　　称名寺調査（考古・美術工芸）
６月３日　常久寺調査（考古・美術工芸）
10日　自然専門部会
17日　民俗専門部会
21日　金井家調査（近世）
25日　近世専門部会
29日　市内民俗調査（民俗）
　　髙安寺調査（考古・美術工芸）
　　郷土の森博物館資料調査（近世）
28日　市史編集委員会
30日　髙安寺調査（考古・美術工芸）
７月５日　市内大工調査（民俗）
６日　長福寺調査（考古・美術工芸）
８日　本願寺調査（考古・美術工芸）
９日　市内民俗調査（民俗）
20日　府中市立中央図書館調査（近現代）
26日　近現代・民俗専門部会部会長打合せ
30日　近世専門部会
　　近現代専門部会
31日　市内盆行事調査（民俗）
８月４日～10日　平和展にて百式司偵尾翼を展示
10日　郷土の森博物館資料調査（近世）
11日　普賢寺調査（考古・美術工芸）
23日～27日　考古資料調査（原始・古代）
24日　郷土の森博物館資料調査（近世）
25日　近世専門部会
31日　中世専門部会
　　府中市立中央図書館調査（近現代）
９月１日　正光院調査（考古・美術工芸）
３日　民俗専門部会
６日　光明院調査（考古・美術工芸）
７日　近現代専門部会
９日　民俗専門部会委員打合せ
　　龍光寺調査（考古・美術工芸）
14日　用水路調査（自然）
21日　法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ調査（近現代）
24日　上染屋不動堂調査（考古・美術工芸）
27日　妙光院調査（考古・美術工芸）
28日　上染屋不動堂縁日調査（民俗）
10月４日　永福寺調査（考古・美術工芸）
５日　長福寺調査（考古・美術工芸）
７日　くらやみ祭調査（民俗）
　　NHK・『日本人のお名前』で府中市の市名の放送（主幹）
10日　市民文化の日で市史編さん刊行物を展示紹介・販売、百式司令部偵察機の尾翼展示
13日　西蔵院調査（考古・美術工芸）
14日　大東京綜合卸売センター調査（民俗）
　　光明院調査（考古・美術工芸）
15日　近現代専門部会
18日　光明院調査（考古・美術工芸）
19日　用水路調査（自然）
20日　原始・古代専門（文献）部会
　　市内民俗調査（民俗）
21日　郷土の森博物館資料調査（近世）
23日　百式司令部偵察機の尾翼調査（主幹）
25日　市内民俗調査（民俗）
26日　市内大工調査（民俗）
27・29日　第八小学校の百葉箱内温湿度計の再設置（自然）
29日　近世専門部会
11月３日　白糸台掩体壕にて百式司令部偵察機の尾翼を展示公開
５日　中世専門部会

16日　郷土の森博物館資料調査（近世）
17日　西蔵院調査（考古・美術工芸）
22日　善明寺調査（考古・美術工芸）
　　西蔵院調査（考古・美術工芸）
30日　近世専門部会
12月１日　市内民俗調査
２日　誓願寺調査（考古・美術工芸）
３日　近現代専門部会
　　原始・古代専門（考古）部会
　　誓願寺調査（考古・美術工芸）
４日　善明寺調査（考古・美術工芸）
７日　多磨寺調査（考古・美術工芸）
９日　郷土の森博物館資料調査（近世）
10日　考古資料調査（原始・古代）
13日　自然専門部会
14日　考古・美術工芸専門部会
16日　市史編さん審議会
　　郷土の森博物館調査（考古・美術工芸）
21日　近世専門部会
　　資料借用（民俗）
23日　郷土の森博物館資料調査（近世）
25日　市内民俗調査（民俗）
28日　市内民俗調査（民俗）

前号以降、次の皆様にご協力をいただきました。ありがとうございました。（五十音順・敬称略）

赤羽茂乃、秋元一修、秋元秀一、秋元良夫、石川裕三、市川閲子、市川紀子、市川千秋、市川仁、井出浩正、伊藤敏春、岩崎靖彦、岩橋清美、榎本崇子、榎本隆乗、大久保謙、大津貞夫、大西久江、大室容一、岡本暉子、小川瑛子、鹿島一夫、鹿島ヨネ、加藤欣一、加藤節子、金井洋、金子操、金井安子、香山ユリ、苅田重賀、菊池武彦、許文英、草薙志帆、久保静江、黒田淳子、桑原正明、小糸咲月、小島壽一郎、後藤恵菜、小林清秀、小林尚子、小牧勇一、小峰孝男、小室克介、酒井中、酒詰明正、佐々木美香、佐々木由香、佐藤政利、柴田実季、島田邦夫、清水勝、進藤礼治郎、鈴木光治、鈴木夕子、須田雄介、関みどり、高坂歩未、髙田詩織、高野宏峰、高橋郁臣、嵩原安一、立石了、田中三郎、田中弘美、田中実、種村威史、都築和浩、外池昇、戸井田和義、時田裕平、得居泰司、登坂祥子、鳥越俊行、内藤和良、長島宏行、長瀬芳美、中畑美郁、中村英治、中村健二、中村泰三、浪江健雄、西本志保子、白鎮慶、長谷川達朗、英恵、馬場出雲、馬場治子、林壽子、林信子、林光利、平野涼子、比留間武宏、藤原洋、古橋研一、別所美沙紀、朴澤好美、益満宏行・隆行、松田信彦、松村清隆、松村茂夫、三井一郎、三岡宏、宮﨑翔一、宮田将寛、棟方鷹揚、茂木雅之、守屋道子、矢内清美、山田勝巳、山本竜希、横川裕一、吉田祐治、依田武、依田富美子、米田穣、渡邉正路

朝日新聞社、安養寺、永福寺、NHK、大國魂神社、お日様文庫、株式会社ダイイチ、上染屋八幡神社、上染屋不動堂、花蔵院、観音院、髙安寺、航空ジャーナリスト協会、航空ファン編集部、光明院、国立国会図書館、是政保育園、西蔵院、産経新聞社、慈恵院、常久寺、正光院、称名寺、成城大学図書館、誓願寺、善明寺、大東京綜合卸売センター、たましん地域文化財団、長福寺、調布市立図書館、東京国立博物館調査分析室、日本航空協会、沼津市明治史料館、普賢寺、府中市郷土の森博物館、府中市史談会、府中書房、府中市立図書館、普門寺、防衛研究所戦史研究センター、法政大学大原社会問題研究所環境アーカイブズ、本願寺、毎日新聞社、妙光院、武蔵野の森公園サービスセンター、武蔵府中熊野神社古墳保存会、メリーランド大学ゴードン・W・プランゲ文庫、読売新聞社、龍光寺

府中市史編さんだより　第 11 号　令和４年 (2022) ２月１日
編集・発行　　府中市文化スポーツ部ふるさと文化財課市史編さん担当
〒 183-0023　東京都府中市宮町３丁目１番地　ふるさと府中歴史館
電話：042-335-4376　　電子メールアドレス :bunkazai02@city.fuchu.tokyo.jp
URL:https://www.city.fuchu.tokyo.jp/bunka/bunka/shishihensan/